

原文 「三國志」II-589上
 秋史 47²行 92末3行
 「ちあ」②1882-7/2
 ①1767-1/3
 ③ 小林 446
 1.880^P-1/2

③380^P
 ①1767^P-1/3 同文
 ②846^P-1/2
 ③1767^P-3/3

文学
 文
 人
 南
 方
 系
 長
 身
 人
 当
 初
 の
 亦
 生
 人
 の
 子
 孫
 達

前述のように、

へ倭国の支配階級の者達や、般民の子孫達

は、文字を使用できたのであろうか、

その余の者達

は、文字の知識を持って

いなかつたのであろうか

と思われ、第二十七章「遠出」の項において既述

中国の文献を見ると、

魏志倭人伝、裴松之の注に

魏略曰、其俗不知正歳四節、但記春耕秋

收、為年紀、

梁書卷五四、諸夷伝、倭の条に

俗不知正歳

などとある

たぶんここに記されていゝる「俗」は、俗人

の意味なのであろうか、俗を示してゐるわけでは

あるまい

倭人伝を語る15^p

倭人伝を語る17^p

1880^p-3/2

天竺 改行

魏志を語る51^p

解	更	公新書	間違	倭人達	いうのだから	と記	倭王	使	魏志	明	倭国	者達	俗人
がある	に	一七頁	い	達	だ	さ	(卑彌呼)	に	に	確	の	(貴人達)	(庶人)
宋書	文字	岡田英弘	ない	(貴人達)	ら	水	が	因	述	に	貴人達	が	で
中心	有無	参照	い	が	ー	て	文	つ	べて	の	が	文字	ない
と	につ		い	文字	ー	注	献	上	いて	の	文	知	者
た	いて		い	を知	ー	目	は	表	る	だ	字	っ	達
五	次		い	つ	だ	さ	な	し	る	ら	を	て	つ
世	の		い	て	水	小	い	恩	る	う	知	い	ま
紀	よ		い	い	が	る	な	を	る	か	っ	た	り
ころ	う		い	た	書	る	い	謝	る	か	て	い	支
う	な		い	た	いた	る	い	した	る	か	い	た	配
い	見		い	た	に	る	い	た	る	か	い	た	配
わ	見		い	た	に	る	い	た	る	か	い	た	配

小林 99 420 477

1301

1121

1005

稲荷山古墳 2913-7/2
江田稲山古墳 録「倭の大王」陸奥全大141
史料に88日本のあり

1881 P

2人との部分(700)
伊勢考振和的

「倭の大王」
宋齊梁陳の
陸奥全大7
4朝という
云1681 南朝

うかがえる。これはまったく手放しの放言ではあるが、

うのくに、倭人社会に於いては八人(七人)も個人名か
掲載された。さ小ている。しかもその記載に当っては
中国流に名前を替えるのでなく、発音ど
おり漢字を使つて忠実に記録してあるよう
だ。

そして、これらの名前の書き方については
時代が違ふとはいえ、たとえば稲荷山古墳出土の
鉄刀に出ている人名「日獲加多支鹵大王」と
いったような字の当て方に共通するところか
うかがえる。

「倭の大王」
宋齊梁陳の
陸奥全大7
4朝という

云1681 南朝

云1681

志

云1533

云2013

コクヨ ケー20 20x20

1,882^P

次頁
から

むしろこの当時の倭人達に
 ふうに名前を書き習慣があったの
 と思われ。あ
 ろう、

倭人が、漢字をせんぜん知らなかつたとは
 とうてい言えないのではないか。

恐らく、日本列島の人びとが漢字文化に接
 して来た期間は、トつは通常考えられて
 よりも、ずつと長いのであろう。

というので、(ハ)倭人伝を讀む。森浩一

中公新書、一五〇一七頁参照

①1884^P 吳音 5767^P 小林 200^P
古代中頃の吳の地から 奈良時代に
渡来した。

(天つち) 改行

吳 571^P

1.883^P

①571^P 1/6 ~ 7/6
see! 1891^P 1955^P ~ 1892^P 25^P
977^P

①571^P は、
吳音・漢音・唐音の三種がある。
日本における字音として代表的なものに

るで

● なるほど、
→ 吳音は、奈良時代に、日本に伝わった。
とする見解がある。(→ 漢和辞典、小林信明
小学館、吳音参照)

鳥に渡来した。
と考えてみた。第六章「吳の字を付いた言葉参照」

音と 大 伯 の 後 と 自 称 す る 倭 人 達 は、
呼ばれる文字の文化を持って、日本列

統を引く文字の文化を日本列島西域にもたら

この物語では、想像圏たくましく

①1873^P 巻

1.884^P

正音・和音
① 1886-2/2
② 1894-2/3

767

という(「世界大百科事典」平凡社へ字音)、「広辞苑」
〈吳音〉〈和音〉〈正音〉参照)

は最も古く、中国の南方から「あそら」は朝
 鮮を経て来たものであろうといわれ、平安時代には
 和音と称された。
 漢音は、そののち隋・唐と国交がひらかれ
 てから(「唐書」七世紀以降)伝えられたもので
 中国北方の標準的な音によるものといわれている。平安時
 代には「正音」とも称された。
 やや遅れて、少く変わった字音、いわゆる
 新漢音が伝えられ、主として密教方面に伝承
 された。
 その後、しばらく国交は途絶えたが、鎌倉
 時代以後、禅宗の渡来とともに新しい字音が
 伝えられ、これを唐音といい、また宋音とも
 いう。
 はじめは吳音の勢力が強かったものの、最近で
 は漢音の勢力のほうが強いの。
 たとえば、漢字「明」の吳音は「ミョウ」
 漢音は「メイ」、新漢音は「ハイ」、唐音は
 「ミン」である。

767

944

944

対島音 1488 ㊦ 571 - 1/6

更に 1,885 P
対島音 1858 P
627 P

出音 大百科
㊦ 561 P
1832 P

また ㊦ 43 P

「広辞苑」吳音、和音、正音

「世界大百科事典」平仄社 八字
「吳・東晋・宋・齊・梁・陳の六王朝の時代」二二三 (五九九年)

また、次のように解説されている。

「吳音は、日本における漢字音の一種であ

る。六朝時代の中国の吳の地方と交通のあつ

た百濟人が日本に伝えたもので、隋・唐代の

北方音を伝えた漢音よりも中国語音の古形を

反映するというのが通説。仏教関係の用語に

もちいられることが多い。対馬音の別称であ

る。」「世界大百科事典」平凡社、吳音

参照

更に、こうも言われている。

「対島音は、吳音の別称である。敏明天皇

の時、百濟の法明という比丘尼(出家して具

足戒を受けた女子)が対馬国に来て、吳音を

用い、維摩經を読んだと伝えている。

という。「広辞苑」対島音参照)

「か」ながら、「も」か「た」ら単に、

「百濟の法明という比丘尼が対馬国に来て

「吳音を用い、維摩經を読んだ」

というだけ、ただそれなのではなからうか。

二二二五八九三
1466

外ル ⑤570^P-3/3 1102 784 とある

1.886^P

飛鳥時代 元37° 推古前後の時代
↓ 前13行 (2)

④1883^P-2/3 小主中 普及 1925^P

●百濟の比丘尼が、吳音を日本国中に広く普及
及させたとはとても考えにくい。あまねく

■ それにしても、
「吳音は、日本に大量に伝わった字音とし
ては最も古い」とい
うことは、非常に重要である。

■ ここに、
「欽明天皇の御代（六世紀）、「飛鳥時代」
推古天皇即位（五九三）から平城遷都（七

一〇）までの時代」、及び「奈良時代」（七
一〇）までの時代」の
中国の吳の地方から直接でなく）

一〇）七（四）の人々が、朝鮮（百濟）
を経由して、吳音を大量に我が国に導入

し、広く使用する必要があったのだろうか
と疑問視される。

■ すでに述べたとおり、
「以前」

「日 吳音」については、
「倭国創建当時の選
かな古代に遡って考察する必要があろう」

と思われ。第六章「吳の字を付した言葉

の参照

*

たの368
小林 206
1882-1/2 1.887-1/2

和歌
和琴

1883P-2/3 正音 761/215
571-2/6 吳音 767 和音 2368
1883-2/3 1884-3年入

と推察される。 **孫が** 我國の支配者達 **華族** であつたから **こそ** 平安時代の貴族達は **吳音** と稱したのであろう。 **和音** と稱したのであろう。 **和琴** **和樂** **和歌** **和文** **和服** などがある。 **恐らく** 吳国で吳音を用いていた者達の末孫が **我國** 本来の言葉だと認識していた。 **この事実** はとりもなおさず、 **我國の貴族華族** 達は **吳音** **こそ**、 **参考** 第二十七章の裏において **既に** **音** **と** いう。 **世界大百科事典** **吳音** **和音** **正音** **と** 稱した。 **先** 先に少々ぶ水たが、 **漢音** **正音** **と** 稱したのに対して、 **吳音** **和音** **と** 稱した。 **漢音** **正音** **と** 稱した。 **漢音** **正音** **と** 稱した。

米
大昔の祖国および先祖を憶び

11 2964
師事 師としてつかえよと

花崗岩 397
みかげ石

1,887-2/2
File 1888P

平田篤胤 1902
1597 碑 天

ひかい
碑の銘
記

神代文字

神代文字の一種とされる日本文を刻んだ

石碑が、徳島県阿波郡阿波町にある(写真図版 326 参照)

この石碑は、同町の杉尾神社前にあり、高

さ二・七寸、幅六十寸、厚さ三四寸の花崗岩

製。江戸後期の国学者平田篤胤に師事した同

町出身の岩雲花香(一七九二-一八六九)が文

久二年(一八六二)に建立したとされている

碑面には、花香が故郷の淵にすむ大ナマス

を詠んだ歌と前書きし、署名が七五文字の日文

が刻まれている。署名が七五文字の日文

神代文字は鎌倉時代から、神道家の間で存

在が信じられ、いろいろな種類がある。その一

つであらひ、ハニグルに似た表音文字で

平田篤胤が見つけたとされ、ハニグルに似た表音文字で

も) 2767 延 表音文字

教えを受けること 789

頁の右(左)物
縦長に配置下さい。

1888



文字を入手
下さい。

④神代文字が刻まれた石碑
花巻の歌碑⑤の神代文字
の一部分が、徳島阿波
郡阿波町津

海防隊安曇 古子川 由 2960' へ 移 1 左
徳島 11 町の 碑 5 file 1888

790

1309

1409

写真図版 326

神代文字碑

『朝日新聞』平成25年5月30日付 <神代文字碑が堂々鎮座> 参照

やまの物 1/5 1891
157年 渡来

新南の 1890
5file 1890
1889-1/5

542

天のま 改行
初日 112.5.30

1193

1874

ら、本居宣長など存在を否定する学者がおり
太平洋戦争後はこれら神代文字も後世の偽作
とするのが定説になつてゐる。

「ひふみ」日文を合め、神代文字は四十七音、また五
十音一が書き表せないが、奈良時代以前の日
本語には、それを上回る数の音があつた

葉俊名はそれをちやんと書き分けてゐる
といふことが、神代文字の存在を否定する根
拠となつてゐるようである。

また、日文は六一四四六年に朝鮮李朝第四代
の世宗王が

学者に作らせた「ハングル」(朝鮮文字)を
まねたものであろうとも言われている。「朝
日新聞」平成二年五月三十日(件参照)

「奈良島北葛城郡新山古墳出土の銅鏡に見られる古鏡
の文字」(因教神代文字入門 原田美)
「古鏡聚英」(上編) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(下編) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(中編) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(後編) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(終編) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(附録) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(索引) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(解説) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(参考文献) 大家巧 共済堂
「古鏡聚英」(あとがき) 大家巧 共済堂

「か」なから、古代の日本に文字が無かつた
とは言い切れない

① 縄文晩期に渡来した殷民の子孫達。(甲骨文字)
② 箕子の子孫達。(扶余系)

甲骨文字

扶余系

(甲骨文字)

1889^p-2/5

③ 会稽かいけいから渡来とらいしたと考えられる倭人わじん達たち（漢かん字じ）

④ 延島えんじま郎らうの子孫こそん達たち

・この四者よっしやのそれぞれが、文字ぶんじの文化ぶんかを持もつていた可能性かんのうせいがあるように思おもわれる。

2017
2003
= 14

次巻10頁

改訂

1889-3/5

弥生やよひのすずり出土いっど

福岡県筑前町の薬師ノ上遺跡は、弥生中期
初頭から後期にかけての集落跡であり、二〇
〇三年の発掘調査で「住居や土器だまり（こ
み捨て場）の遺構が確認された。その時、土器
だまりから出土した石片が、弥生時代後期前半
（一世紀）の「すずり」とみられることが「
国学院大の柳田康雄客員教授（東アジア考古

学）の鑑定で分かった。（写真図版次頁 327 参照）

・発見時は「弥生時代」に文字文化があったと
考えられず、「用途不明の板状石製品」とされて
いた。ところが、二〇一六年「同県糸島市の
三雲・井原遺跡で弥生時代の「すずり」とみ
られる石片が発見され、「認識が一変した」。

柳田氏は「薬師ノ上遺跡出土の石片中央部
に「すずり」の痕跡えせきがあり、「墨」とみられる黒い付
着物を確認。形状が中国・漢代に普及した長
方形板状の「すずり」と似ており、石質も朝



- ・ 加一
- ・ 頁の上下にわたリ、
大きさはみ出し
掲載下さい。

1889^p-4/5



794

1409 写真図版 327 弥生時代のすずり

1309 『西日本新聞』平成29年11月20日「弥生のすずり」初の完形品か」参照。
1309 中央部、横方向に割れていす。

1889^p-5/5

鮮半島の出土の地に近いため、口すずり口と判
断した。(西日本新聞、平成二十九年十一月
としよう。(「朝日新聞」)

月九日、弥生のすずり、初の完形品か。(朝日
新聞、平成二十八年三月二日、伊都国に弥生のすずり参照)

伊都国

三雲・井原遺跡で出土した口弥生時代のす
ずり口は、天日槍が使用していたのかも知
れない。(第3表参照)の子孫、倭人もしくは渡来人

漢字の知識をもつ

だから、(第3表参照)の子孫、倭人もしくは渡来人
だから、(第3表参照)の子孫、倭人もしくは渡来人

口すずり口を用いたのか分からない。
倭人が、通りすがりに、二つに割水してま

つた口すずり口を、土器だまりの中へ捨てた
のだろうか。(不明)

なお、

弥生時代の前100年ころから古墳時代

にかけての砥石状石製品のうち、一五〇例以
上か、口すずり口

としよう。(朝日新聞、令和二年五月十四日付

日本の文字文化、紀元前から？参照

④4305 221 113 紀(下) 314 小原 2034 2467 ⑤775-3/2 1865 ⑥1396 1890 ⑦775P ⑧4631 2/3 橋本 4621 1/4 1063P ⑨874 HV

③ 会稽から渡来したと考えられる倭人達(漢字)

④ 延島郎の子孫達。

この四者のそれぞれが、文字の文化を持つていた可能性があるように思われるからである。

唐代の日本列島に、万葉仮名だけにな

く、四十七音、または五十音しか書き

表わせない。神代文字が存在していたとい

ても、少しも不思議ではない、というべきであ

ろう。

米

第八章 漢文史料に見る二つの倭

世術の項において、種々述べた。

しかし、いま少し述べた。

魏志倭人伝は、全体的に見れば、非常に

好意的であり、微に入り細にわたって、克明に述

べているのに、どうした訳か、

彌平・邪馬壹等の幾つかの文字が、妙

くに、見下したような印象を与えているといえ

よう。

魏志倭人伝のそのその原文を著述した中

云々 718 原文 もとの文章

表現
①895¹/₄

見下げ? 2110^P
な 1661^P

巻 1991¹-3/4

巻 1991¹-4/4

1.891^P

バッほう
歳 1994^P

相手または相手の所作状態をさげはく...の

国人(魏志倭人伝の大本の筆者)は、倭人
達を蔑視していたのであろうか。

いや、そうであったならば、もつと随所に
その感情が表われている筈だと思われ、子の

実際のには、曰卑彌呼曰・曰邪馬壹國
などのわずかな字句だけが、異様に、
で記されていいる、といえよう。

ここに、魏志倭人伝の長文中から、「蔑称
と思われ、ものを抜き出してみると、

「倭人」「倭」「狗邪韓国」「卑狗」「卑

母離」「邪馬壹國」「伊邪國」「邪馬國」

「卑彌呼」「倭王」「倭國」「伊勢耆振邪狗

「倭錦」「卑彌弓呼素」

などがあげられる。
ようするに人名・国名・役職・産物などの単
語に限ってのみ、蔑視的な字が用いられている。

だが、その余の文中には見下
たような表現が見られ、何となく

も異様である。

米

云 282^P 桓本
云 1872^P

車讓 忠信 292° 821
 左伝 = 左氏伝 春秋左氏伝
 1895° 1886° 1895° 1895°
 一文字 1881° 天竺改行 1881° 天竺改行 1881° 天竺改行 1881°
 天子がおこしはきくたさ小
 ①423 ①1423 ①1423 ①1423

1.892°

カン 292°
 カン 821°
 カン 292°

この物語では、次のように考えてみたい。
 魏志倭人伝の正始元年（二四〇）条に、
 倭王、使に因つて上表し、詔恩を答謝す
 とある。（第十九章 帯方郡太守弓遵の項において既述）
 倭の女王卑彌呼は、上表（文書）
 で天子に申し上げることとして、詔恩（天子
 がおこしたはきくたさ小た恩情）を答謝した
 とリウ
 あるいは、こつた幾通かの文中に於て、
 日御子とは、自ら逐り、倭国王卑彌
 呼と書き、キーるためか、知れな
 い。そこで、中国式の一文字の表記でなく、卑
 彌呼と書き表わされることになつたのでは
 なからうか。
 中国人達は、
 このような倭人の記述に従つて、
 倭人・倭・邪馬台国・倭王・倭国・伊聲
 耜振邪狗
 などと書き記したのだらうかと想像される。
 なお、春秋左氏伝に、
 忠信卑讓之道也。（忠信はまこと。卑讓

倭人伝を讀む 68n69p
⑤ 775p 1397p

1.893p

④ 1269p ⑥ 775p-2/2
1401p 1399p

⑦ 3144p

こと

こと

はへりくだること
とある。「大字典」上田万年、講談社へ卑讓参照

・周の時代にすてハリくだることをも美德とす
考え方があって、太伯の血を引く倭人傳はその慣例を大切に守り続けてきたのであろう。

もつとも、倭国にそろした習わしがあったはかりでなく、三国志、東夷伝編纂時に中国の力を誇示し、面目を保つ為、費用を多用する傾向があったかも知れない。(第

十八章「倭国の処世術」の項において既述)

*

また、重複するが、論衡に、

「周の朝廷に倭人が凶と草を貢じた」とある。(第八章「聖徳天皇」へ漢文史料に見

える二つの倭の項において既述)

周の時代、長兄太伯の血を引く吳国の

⑧ 1450

かえ 故に こういうわけに の石の上、やち故と
たあ、ゆえ、いかに

135P

1894P

91P

者達は、周室へ朝貢するに当って、

自らをことさら卑下し、**倭人**と自称し

たことであらうか。

■本来なら、周の統治者であつてしかるべき

血筋の者達は、**倭人**の血筋ゆえに、

へ勤ぐら水たり、思いもしない曲解を招か

たり、ない為にも、用心の上に用心を重ね

自らを**倭人**と称したのであろう。

と推察される。

■ちなみに、**倭人**という文字には、

④従う。『明解漢和辞典』長澤規矩也、三省堂

⑤すなおなさま。まわりどおりさま。みにく

い。『漢和辞典』小林信明、小学館

と、**倭人**のような意味がある。

●身を低くし、卑屈なまでに自分を卑下する

ことによつて、**倭人**の生きる道はなかつ

たのであろう。

●**倭人**（**倭人**）達は、**倭人**の虚飾をな

げ捨て、自らを卑しめ、朝廷に仕える身で

あると表明したに相違ない。

■そして、この**倭人**の処世術は、**倭人**の

小林 891P

記 92^p
大毛 3257^p

④ 2889^p
下 314^p 小本
3257^p
4.305^p

記 237^p
記 238^p

1895^p - 1/5

不同云 1953^p 卑称 ④ 3256^p

「猿田彦を挟んで沈溺れさせた目である」という

とてあろうと思われ。 (第四十八章 猿田彦と天守受売の項において述べた) 比良夫と天守受売の項において述べた。 (第四十八章 猿田彦と天守受売の項において述べた) 比良夫と天守受売の項において述べた。

● 安曇山背連比良夫皇極元・二・二。 * 記に比良夫とあり、恐らく女陰のこ

文館から抜粋。順不同) 日本書紀のなかから、卑称はここに、日本書紀のなかから、
かも知れないと思える名を、参考まで
に列挙してみよう。(日本書紀索引) 吉川弘
文館から抜粋。順不同) 日本書紀のなかから、
かも知れないと思える名を、参考まで
に列挙してみよう。(日本書紀索引) 吉川弘

1865

つまり、
へ日御子が、自らへり下って日卑彌呼と
糸した
ように思われる。
*
和 小 22
不思議 1892^p 9^p

に引き継がれ、秦・前漢(初頭)の頃には特
に大きな力を発揮し、そしてさらに東海海中
の島日倭国に伝えられたのであろう、と
想像される。

紀上148 紀下 3250-1/3
506P

1.895P-2/5

紀下 140P

紀上 128P
54
紀下 310P

紀上92 紀上231P
44
38P

* * 福利山推古十六年九月十一日
フクリは下陰書集の意味であった可能性がある
ふくらみがあって舞水しているものを「フクロ」
「フクリ」といったのであろう

伊香色謎命 孝元七・二・二 (女性の名である)
 書第六に「予母都志許売」とあり、神代紀(上)第五段「
 悪な女」という意味である。
 伊香色雄 雄
 高田醜雄 雄
 葦原醜男 (大己貴の別名) 神代紀(上)第八段書第六
 石川錦織首許呂斯 仁徳四・一・三。
 菟道貝削皇女 敏達五・三・一〇。
 男大迹 天皇 継体紀冒頭。
 男大迹 (乎富等) は、小さなホトの意味
 である。 小さな陰部 意味しているの
 だ。 (第六十五章) 會祖父は大きいホト
 をおぼへた。 (第六十五章) 會祖父は大きいホト
 男大迹は小さいホトの項において述べた
 土師富栴 持統四・一〇・二二。
 柿本臣 猿 天武一〇・一二・二九。
 許勢臣 猿 欽明三一・七。
 清の湯山主三名 狹漏房 八嶋篠 (神代紀
 第八段一書第一。素戔鳴尊の子)
 猿田彦 神代紀(下)第九段一書第一。

H23 10.9(甲)⑥

大己の貴命

④3500^{1/2}

くまのり小村328

承=養

紀上149

1.895^P-3/5

紀下236

紀下194

紀下195

紀下314

紀上128

④4305^P

②

水「自分の為の日卑稱」を保持していたのだろう
と想像される

○ 猿女君 乃 (神代紀) (下) 第九段一書第一

○ なるほど (1366) 「サル」が卑稱であつたとは断

○ 言できなにかい、おかしな名前たという印象は

○ かつたように思われる。

○ 倉臣小屎 乃 白雉元・二・一五。

○ 押坂部史毛屎 乃 用明二・四・二。

○ 綿織首久僧 乃 推古十七・十・十七。(屎の意かという)

○ これらは、卑稱の代表である」といえよう。

○ 蘇我入鹿 乃 (更の名は鞍作) 皇極元・正・一五。

○ 蘇我蝦夷 乃 推古十八・一〇。

○ 鴨君蝦夷 乃 天武元・元・二九。

○ 知らぬ。入鹿 乃 や 蝦夷 乃 は、自

○ 然、卑稱として用いた名前であつたのか

○ 尚、

○ 大己貴命の亦の名が、葦原醜男 乃

○ 蘇我鞍作の更の名が、入鹿 乃

○ であることなどから推して

○ 往古の人々 (臣下の者達) は皆、それぞ

コクヨ ケー20 20x20

四位少将
2034
2469

1,895P-4/5

H17(2005)6.29(A) ㊦
㊦㊦

将を名乗るのだから、甚だややこしい。
 ② 四位の少将とは、位加四位であるときか
 かわらぬ、近衛少将(五位相当)である者の
 ことであり、名譽な地位とさかたというへん
 辞苑へ四位の少将参照
 ④ 三位の中将は、四位の少将より一階
 りくだる。気持ちは表わしているのではな
 ろうか。

但し、宮中で卑称を用いるのは相応しくない。
 ※宮内省の門外で、卑称を捨て、清浄な身となつて、
 公務を行なつていたのではなからうか、などとも思われるが、
 全く確証はない。

④ 三位の中将は、近衛中将で三位に昇つ
 た人のことである。
 ・もつとも、中将の相当位は、三位より一階
 級下の、四位である。(「辞苑 三位の中将参照」)
 ・すなわち、中将(四位)から三位に昇つた
 というのに、一階あえて二階までの「中

H30(2018)5.11(金)~5.12(土)
 H31(2019)1.13(日)~1.13(3日)
 令和元(2019)6.18(火)~6.20(3日)
 令和2(2020)1.26(日)~1.26(3日)
 令和2(2020)10.9(土)~10.11(4日)

330
 1986
 1895-5/5
 あはさや52
 5603

1859
 1865

と推察される。
 1761

このような習慣はバリーバリー周の時代に
 周の時代に
 謙遜する。

現代においてさえも日常的に我々は、相互
 の摩擦を少くしようとして、相手の心の内を
 慮り、

卑下謙譲の表現を行う。
 粗末な物ですが、
 などと言いつ

弊社「あはらや」(自分の家の謙称)
 「拙者」
 「愚妻」
 「愚息」

さらにもまた、
 我国において、
 不必要だと思え
 自身

れに自分の為の日卑称を持っていったの
 うう
 と
 定かならな
 趣象さめる。

干支表

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60
甲子	乙丑	丙寅	丁卯	戊辰	己巳	庚午	辛未	壬申	癸酉	甲戌	乙亥	丙子	丁丑	戊寅	己卯	庚辰	辛巳	壬午	癸未	甲申	乙酉	丙戌	丁亥	戊子	己丑	庚寅	辛卯	壬辰	癸巳	甲午	乙未	丙申	丁酉	戊戌	己亥	庚子	辛丑	壬寅	癸卯	甲辰	乙巳	丙午	丁未	戊申	己酉	庚戌	辛亥	壬子	癸丑	甲寅	乙卯	丙辰	丁巳	戊午	己未	庚申	辛酉	壬戌	癸亥
177	176	175	174	173	172	171	170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119	118
57	56	55	54	53	52	51	50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	前1	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
64	65	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	80	81	82	83	84	85	86	87	88	89	90	91	92	93	94	95	96	97	98	99	100	101	102	103	104	105	106	107	108	109	110	111	112	113	114	115	116	117	118	119	120	121	122	123
124	125	126	127	128	129	130	131	132	133	134	135	136	137	138	139	140	141	142	143	144	145	146	147	148	149	150	151	152	153	154	155	156	157	158	159	160	161	162	163	164	165	166	167	168	169	170	171	172	173	174	175	176	177	178	179	180	181	182	183
184	185	186	187	188	189	190	191	192	193	194	195	196	197	198	199	200	201	202	203	204	205	206	207	208	209	210	211	212	213	214	215	216	217	218	219	220	221	222	223	224	225	226	227	228	229	230	231	232	233	234	235	236	237	238	239	240	241	242	243
244	245	246	247	248	249	250	251	252	253	254	255	256	257	258	259	260	261	262	263	264	265	266	267	268	269	270	271	272	273	274	275	276	277	278	279	280	281	282	283	284	285	286	287	288	289	290	291	292	293	294	295	296	297	298	299	300	301	302	303
304	305	306	307	308	309	310	311	312	313	314	315	316	317	318	319	320	321	322	323	324	325	326	327	328	329	330	331	332	333	334	335	336	337	338	339	340	341	342	343	344	345	346	347	348	349	350	351	352	353	354	355	356	357	358	359	360	361	362	363
364	365	366	367	368	369	370	371	372	373	374	375	376	377	378	379	380	381	382	383	384	385	386	387	388	389	390	391	392	393	394	395	396	397	398	399	400	401	402	403	404	405	406	407	408	409	410	411	412	413	414	415	416	417	418	419	420	421	422	423
424	425	426	427	428	429	430	431	432	433	434	435	436	437	438	439	440	441	442	443	444	445	446	447	448	449	450	451	452	453	454	455	456	457	458	459	460	461	462	463	464	465	466	467	468	469	470	471	472	473	474	475	476	477	478	479	480	481	482	483
484	485	486	487	488	489	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499	500	501	502	503	504	505	506	507	508	509	510	511	512	513	514	515	516	517	518	519	520	521	522	523	524	525	526	527	528	529	530	531	532	533	534	535	536	537	538	539	540	541	542	543
544	545	546	547	548	549	550	551	552	553	554	555	556	557	558	559	560	561	562	563	564	565	566	567	568	569	570	571	572	573	574	575	576	577	578	579	580	581	582	583	584	585	586	587	588	589	590	591	592	593	594	595	596	597	598	599	600	601	602	603
604	605	606	607	608	609	610	611	612	613	614	615	616	617	618	619	620	621	622	623	624	625	626	627	628	629	630	631	632	633	634	635	636	637	638	639	640	641	642	643	644	645	646	647	648	649	650	651	652	653	654	655	656	657	658	659	660	661	662	663
664	665	666	667	668	669	670	671	672	673	674	675	676	677	678	679	680	681	682	683	684	685	686	687	688	689	690	691	692	693	694	695	696	697	698	699	700	701	702	703	704	705	706	707	708	709	710	711	712	713	714	715	716	717	718	719	720	721	722	723
724	725	726	727	728	729	730	731	732	733	734	735	736	737	738	739	740	741	742	743	744	745	746	747	748	749	750	751	752	753	754	755	756	757	758	759	760	761	762	763	764	765	766	767	768	769	770	771	772	773	774	775	776	777	778	779	780	781	782	783
784	785	786	787	788	789	790	791	792	793	794	795	796	797	798	799	800	801	802	803	804	805	806	807	808	809	810	811	812	813	814	815	816	817	818	819	820	821	822	823	824	825	826	827	828	829	830	831	832	833	834	835	836	837	838	839	840	841	842	843
844	845	846	847	848	849	850	851	852	853	854	855	856	857	858	859	860	861	862	863	864	865	866	867	868	869	870	871	872	873	874	875	876	877	878	879	880	881	882	883	884	885	886	887	888	889	890	891	892	893	894	895	896	897	898	899	900	901	902	903
904	905	906	907	908	909	910	911	912	913	914	915	916	917	918	919	920	921	922	923	924	925	926	927	928	929	930	931	932	933	934	935	936	937	938	939	940	941	942	943	944	945	946	947	948	949	950	951	952	953	954	955	956	957	958	959	960	961	962	963

图·表·写真图版索引

图：

表：

写真图版：

番号	卷	頁	番号	卷	頁	番号	卷	頁	番号	卷	頁
1	1	36	51	1	361	101	2	102	151	2	307
2	1	37	52	1	372	102	2	104	152	2	322
3	1	58	53	1	376	103	2	105	153	2	323
4	1	71	54	1	377	104	2	107	154	2	326
5	1	84	55	1	385	105	2	108	155	2	327
6	1	85	56	2	9	106	2	112	156	2	328
7	1	86	57	2	10	107	2	119	157	2	329
8	1	87	58	2	11	108	2	124	158	2	335
9	1	90	59	2	12	109	2	126	159	2	360
10	1	91	60	2	13	110	2	126	160	2	363
11	1	92	61	2	15	111	2	128			
12	1	96	62	2	17	112	2	134			
13	1	97	63	2	17	113	2	135			
14	1	100	64	2	18	114	2	137			
15	1	101	65	2	19	115	2	138			
16	1	103	66	2	23	116	2	146			
17	1	116	67	2	24	117	2	147			
18	1	134	68	2	30	118	2	149			
19	1	135	69	2	31	119	2	152			
20	1	143	70	2	33	120	2	170			
21	1	160	71	2	35	121	2	172			
22	1	167	72	2	35	122	2	172			
23	1	170	73	2	35	123	2	173			
24	1	194	74	2	34	124	2	174			
25	1	203	75	2	34	125	2	174			
26	1	218	76	2	34	126	2	177			
27	1	219	77	2	41	127	2	177			
28	1	220	78	2	44	128	2	180			
29	1	248	79	2	46	129	2	181			
30	1	277	80	2	50	130	2	185			
31	1	279	81	2	51	131	2	186			
32	1	281	82	2	54	132	2	194			
33	1	282	83	2	55	133	2	200			
34	1	284	84	2	57	134	2	214			
35	1	286	85	2	60	135	2	219			
36	1	295	86	2	61	136	2	225			
37	1	306	87	2	69	137	2	241			
38	1	306	88	2	73	138	2	242			
39	1	306	89	2	74	139	2	249			
40	1	306	90	2	74	140	2	260			
41	1	306	91	2	75	141	2	264			
42	1	306	92	2	80	142	2	270			
43	1	311	93	2	82	143	2	281			
44	1	314	94	2	83	144	2	288			
45	1	315	95	2	87	145	2	289			
46	1	318	96	2	89	146	2	291			
47	1	325	97	2	94	147	2	293			
48	1	352	98	2	95	148	2	299			
49	1	352	99	2	96	149	2	300			
50	1	360	100	2	99	150	2	303			

番号	卷	頁
1	1	29
2	1	38
3	1	39
4	1	83
5	1	113
6	1	114
7	1	148
8	1	148
9	1	156
10	1	182
11	1	319
12	2	22
13	2	218
14	2	329
15	2	368

番号	卷	頁	番号	卷	頁	番号	卷	頁
1	1	63	51	2	86	101	2	319
2	1	120	52	2	87	102	2	333
3	1	120	53	2	120	103	2	333
4	1	136	54	2	121	104	2	339
5	1	137	55	2	122			
6	1	138	56	2	124			
7	1	162	57	2	129			
8	1	164	58	2	144			
9	1	171	59	2	148			
10	1	183	60	2	161			
11	1	275	61	2	166			
12	1	293	62	2	167			
13	1	318	63	2	167			
14	1	321	64	2	170			
15	1	327	65	2	177			
16	1	327	66	2	179			
17	1	327	67	2	183			
18	1	327	68	2	183			
19	1	344	69	2	184			
20	1	351	70	2	190			
21	1	355	71	2	190			
22	1	355	72	2	191			
23	1	356	73	2	191			
24	1	357	74	2	194			
25	1	357	75	2	194			
26	1	359	76	2	196			
27	1	365	77	2	201			
28	1	366	78	2	202			
29	1	370	79	2	204			
30	1	370	80	2	205			
31	1	371	81	2	208			
32	1	374	82	2	229			
33	1	376	83	2	230			
34	1	383	84	2	232			
35	1	383	85	2	233			
36	1	396	86	2	234			
37	2	14	87	2	235			
38	2	26	88	2	239			
39	2	47	89	2	250			
40	2	52	90	2	253			
41	2	52	91	2	255			
42	2	52	92	2	255			
43	2	54	93	2	262			
44	2	55	94	2	263			
45	2	57	95	2	267			
46	2	58	96	2	276			
47	2	58	97	2	292			
48	2	63	98	2	294			
49	2	75	99	2	311			
50	2	84	100	2	314			

図

番号	巻	頁	番号	巻	頁
161	3	16	207	3	522
162	3	51	208	3	595
163	3	83	209	3	601
164	3	143	210	3	603
165	3	194	211	3	610
166	3	239	212	3	620
167	3	242	213	3	636
168	3	261	214	3	641
169	3	281	215	3	642
170	3	282	216	3	643
171	3	283	217	3	651
172	3	284	218	3	652
173	3	289	219	3	685
174	3	292	220	3	688
175	3	295	221	3	689
176	3	296	222	3	690
177	3	303	223	3	691
178	3	306	224	3	696
179	3	307	225	3	788
180	3	314	226	3	844
181	3	315			
182	3	346			
183	3	349			
184	3	356			
185	3	361			
186	3	362			
187	3	363			
188	3	365			
189	3	384			
190	3	388			
191	3	389			
192	3	393			
193	3	418			
194	3	441			
195	3	442			
196	3	473			
197	3	474			
198	3	475			
199	3	485			
200	3	486			
201	3	489			
202	3	490			
203	3	493			
204	3	512			
205	3	514			
206	3	515			

表

番号	巻	頁
16	3	19
17	3	24
18	3	44
19	3	202

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁
105	3	39	152	3	419
106	3	40	153	3	419
107	3	52	154	3	420
108	3	67	155	3	421
109	3	68	156	3	425
110	3	84	157	3	429
111	3	85	158	3	430
112	3	88	159	3	431
113	3	104	160	3	432
114	3	107	161	3	433
115	3	195	162	3	434
116	3	196	163	3	436
117	3	212	164	3	439
118	3	213	165	3	441
119	3	246	166	3	444
120	3	250	167	3	447
121	3	252	168	3	479
122	3	255	169	3	491
123	3	256	170	3	504
124	3	256	171	3	519
125	3	256	172	3	526
126	3	257	173	3	533
127	3	260	174	3	545
128	3	261	175	3	599
129	3	261	176	3	599
130	3	268	177	3	605
131	3	268	178	3	606
132	3	269	179	3	613
133	3	272	180	3	618
134	3	299	181	3	619
135	3	316	182	3	621
136	3	317	183	3	622
137	3	320	184	3	624
138	3	344	185	3	631
139	3	348	186	3	645
140	3	351	187	3	653
141	3	354	188	3	697
142	3	364	189	3	697
143	3	364	190	3	697
144	3	382	191	3	698
145	3	396	192	3	699
146	3	401	193	3	733
147	3	407	194	3	734
148	3	408	195	3	738
149	3	409	196	3	755
150	3	410	197	3	853
151	3	412			

図

番号	巻	頁
227	4	41
228	4	78
229	4	87
230	4	99
231	4	105
232	4	173
233	4	174
234	4	181
235	4	201
236	4	213
237	4	232
238	4	267
239	4	381
240	4	511
241	4	535
242	4	540
243	4	541
244	4	555
245	4	567
246	4	568
247	4	569
248	4	570
249	4	611
250	4	647
251	4	675
252	4	680
253	4	801
254	4	814
255	4	831
256	4	838
257	4	839
258	4	847
259	4	848
260	4	849
261	4	855
262	4	865

表

番号	巻	頁
20	4	37
21	4	135
22	4	358
23	4	377
24	4	654
25	4	808
26	4	817
27	4	893
28	4	906

写真図版

番号	巻	頁
198	4	44
199	4	65
200	4	108
201	4	111
202	4	112
203	4	113
204	4	122
205	4	175
206	4	182
207	4	183
208	4	419
209	4	420
210	4	425
211	4	490
212	4	491
213	4	501
214	4	503
215	4	543
216	4	580
217	4	603
218	4	604
219	4	652
220	4	701
221	4	702
222	4	835
223	4	846
224	4	859
225	4	892
226	4	893
227	4	897
228	4	902
229	4	905

図

番号	巻	頁
263	5	40
264	5	41
265	5	46
266	5	61
267	5	65
268	5	68
269	5	73
270	5	102
271	5	103
272	5	104
273	5	197
274	5	200
275	5	231
276	5	293
277	5	297
278	5	322
279	5	414
280	5	445
281	5	445
282	5	450
283	5	531
284	5	562
285	5	563
286	5	568
287	5	571
288	5	577
289	5	588
290	5	590
291	5	596
292	5	597
293	5	620
294	5	659
295	5	674
296	5	698
297	5	712
298	5	715
299	5	737

表

番号	巻	頁
29	5	218

写真図版

番号	巻	頁	番号	巻	頁	番号	巻	頁
230	5	42	267	5	525	304	5	656
231	5	49	268	5	533	305	5	657
232	5	51	269	5	536	306	5	658
233	5	52	270	5	541	307	5	661
234	5	53	271	5	542	308	5	662
235	5	62	272	5	543	309	5	662
236	5	63	273	5	546	310	5	664
237	5	64	274	5	547	311	5	675
238	5	67	275	5	556	312	5	687
239	5	69	276	5	557	313	5	688
240	5	70	277	5	558	314	5	689
241	5	105	278	5	559	315	5	689
242	5	106	279	5	560	316	5	695
243	5	107	280	5	561	317	5	705
244	5	198	281	5	579	318	5	718
245	5	199	282	5	580	319	5	720
246	5	210	283	5	581	320	5	726
247	5	211	284	5	582	321	5	739
248	5	232	285	5	589	322	5	741
249	5	256	286	5	591	323	5	744
250	5	274	287	5	591	324	5	750
251	5	308	288	5	592	325	5	751
252	5	309	289	5	593	326	5	790
253	5	313	290	5	593	327	5	794
254	5	314	291	5	594			
255	5	362	292	5	595			
256	5	413	293	5	601			
257	5	426	294	5	605			
258	5	427	295	5	609			
259	5	428	296	5	610			
260	5	459	297	5	613			
261	5	460	298	5	635			
262	5	464	299	5	636			
263	5	491	300	5	647			
264	5	495	301	5	653			
265	5	499	302	5	654			
266	5	500	303	5	655			

〔著者紹介〕

こがけいさく
古閑炯作

昭和16年(1941年)5月に生まれる。

著書

- ・『小野小町』第1刷、第2刷。(株)新人物往来社〔現在、株式会社KADOKAWA〕。
(『新・やまと物語』の末尾あたりから一部抜粋)
* 第2刷(91頁)「第九十三章」から読んでいただきたいと思います。
興味深い筋書きとなっています。
- ・『新・やまと物語』第一巻・第二巻まで刊行。株式会社KADOKAWA。
- ・『新・やまと物語』第三巻以降は、インターネットで、閲覧ください。

811/811

令和4(2022)1.23 読んだ。
" " 12.18 著「文字427」(左白)
" " 11.18 頁427) (右)
令和3(2021)9.3(左)
PKスクール(パソコンと着物教室)から返去された。
頁確認した。(右) (右)